大雪山国立公園の沿革

大雪山は日本でもっとも広く、もっとも原始的な山岳国立公園である。北海道の中央部を占める最高峰・旭岳を中心とした大雪山連峰、十勝岳を中心とした十勝岳連峰、石狩岳を中心とした石狩山群などの山岳を含む約23万ヘクタールの面積を有し、神奈川県とほぼ同じ広さがある。

これらの山岳は2,000メートル前後の高さであるが山の広がりは雄大であり、北に位置するため、日本アルプスの3,000メートル級の山々に匹敵する高山環境を有し山頂部はいたるところ華麗な高山植物群落にいろどられている。

大雪の国立公園の沿革をのべると、つぎのとおりである。

国立公園区域の指定：昭和9年12月4日
面　　積：231,929ヘクタール
特別地域の指定：昭和13年5月13日
特別保護地区の指定：昭和46年1月22日

国立公園区域のうち、地域、地種区分の面積の概要は

特別保護地区：36,512ヘクタール
特別地域：152,684 〃
うち
- 第一種：33,483 〃
- 第二種：12,124 〃
- 第三種：107,077 〃

普通地域：42.733 〃

となっている。（48. 12 現在）

ここ3年間ほどの大雪山に関する動きは、縦貫道路問題を頂点としてきわめてあわただしいものであった。社会情勢や生活環境の激変もさることながら、これは大雪山本来の姿、国立公園としての在り方を問われているものであろう。いま、大雪山国立公園は公園計画の見なおし作業が行なわれている。現在の視点から、保護計画・利用計画とも大きくメスを加えられることとなるはずである。

（北海道生活環境部自然保護課）
長谷川　雄　七